

急性副鼻腔炎・急性上顎洞炎

《概念》

副鼻腔炎（蓄膿症）の急性状態をさします。レントゲンで副鼻腔に炎症の影が写ります。風邪や感冒症状にひきつづき、頬部（ほっぺた）や前頭部（ひたい）のあたりが強く痛み、膿のような鼻汁があり、時に熱もでます。

《原因》

いわゆるウィルスが原因である風邪が、通常の治癒過程より長引き、その間、細菌による二次感染を引き起こし、特に副鼻腔に限局して炎症をおこした時に発症します。副鼻腔は、左右4つずつの空洞がありますが、上顎洞がもっとも副鼻腔炎をひきおこしやすい空洞です。また、ひどい虫歯や歯槽膿漏のような歯が原因で上顎洞に細菌感染をひきおこすこともあります。

《症状》

風邪にひきつづくことより、一般的な感冒症状があります。それとは別に副鼻腔炎の特長として、膿性鼻汁・鼻閉・頬部の痛みや圧迫感・臭いや味覚の低下・頭痛・頭重感・熱感・歯痛・全身倦怠感などがみられます。片方のことも両方同時に炎症をおこすこともあります。また、上顎洞以外の他の空洞も同時にやられることもあります。

《検査》

レントゲンにより、部位と程度を確認します。

また、原因菌の確定のために、細菌の検査を行ないます。培養に1週間要します。

《治療》

通常風邪治療として抗生剤（化膿止め）や抗炎症剤（解熱剤）などを処方します。ただし、風邪の二次感染として合併してくることが多く、また、副鼻腔に膿を貯留しているため、抗生剤の点滴を数日行います。

《経過》

きちんとした治療を行えば、2週間位で治ります。慢性化しないためにも初期治療が、重要です。なかには、遷延化して慢性副鼻腔炎（蓄膿症）に移行する例もあります。

はなみ会HP

<http://hanamikai.com>

